

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104829
法人名	医療法人 寛容会
事業所名	グループホーム 癒しの森
訪問調査日	平成21年9月25日
評価確定日	平成21年11月25日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104829
法人名	医療法人 寛容会
事業所名	グループホーム 癒しの森
所在地	鹿児島県鹿児島市岡之原町600番地1 (電話) 099 - 295 - 7255

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(21年8月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9 人、非常勤 9 人、常勤換算	15,3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1000円	その他の経費(月額)	1日 500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1300 円			

(4) 利用者の概要(8月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 81,4 歳	最低	48 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	緑ヶ丘クリニック・森口病院・大田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の北部郊外の自然豊かな環境の中にある「癒しの森」は、モダンな外観のグループホームでコンクリートの打ちっ放しの外壁に広々としたウッドデッキが1階、2階ともに造られており、ふんだんに使われている木により温かさが漂う。2階のウッドデッキからは桜島を望むことができ、杉木立と畑に囲まれた自然環境の中で、利用者は毎日のように散歩を楽しみ、周りの景色や畑の作物で四季を感じることができる。住宅地でもあり、災害時については運営推進会議を通じて町内の防災組織との緊急連絡網や協力体制ができています。ホームとしても実に心強い。また、職員は常に理念を念頭に置き、その人らしさを尊重し、利用者の思いや意向を出来る限り叶えられるように努め、理念の実践を日々心がけてケアにあたっている。開設4年が経ち、職員のチームワークも良く、今後更に地域に密着したグループホーム運営と質の高いサービスの提供が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は2ヵ月に1回開催しており、討議内容もホームの運営に活かしている。職員を育てる取り組みでは、ホーム内研修の研修計画をたて、職員育成に取り組んでいる。同業者との交流は相互訪問しており、ともにサービスの質の向上を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価をしてもらい、管理者がまとめあげた。管理者、職員は振り返りの機会として捉え、初心に戻り、再認識させられるとして評価の意義を理解して取り組んでいる。外部評価の結果は家族にも配布し、運営推進会議でも報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヵ月ごとに運営推進会議を開いている。町内会長、民生委員、行政関係者、家族などの参加を得て利用者の状況報告や行事、外部評価の結果報告など行っている。ホーム側から地域へ災害時の協力要請をし、話し合った結果、町内会の防災組織の協力を得ることができ、緊急連絡網にも入ってもらえるなどホームの安全面でも運営に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書には相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。面会の際にできるだけ家族と話す時間を多くとるように努めている。また、よりコミュニケーションが図れるように家族と職員との食事会も設けており、家族の意見、要望などを聞き出す工夫をしている。出された意見、要望などは改善に結び付くように話し合い、運営に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の清掃活動に参加したり、地域のお祭りの準備、出店(ホームでもちをつき、切りもちの販売)で利用者も見学を兼ねて参加している。また、介護教室の案内や病気予防掲載の広報誌を回覧板につけてもらい、ホームの理解、啓発に努めている。今年度より、「子ども110番の家」になるなど、地域の一員として積極的に地域との交流の機会を作っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人」「思」「心」を柱にグループホーム独自の理念を掲げている。その中に「家族と地域との絆、ふれあいを大切にしていこう」との文言があり、家庭と地域との交流の大切さをうたっている。Tシャツにも理念をプリントし、地域活動の際などに着用することで理念の啓発にもなっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホール、職員トイレ、台所など職員が常に目につきやすい個所に掲示し、日々のケアで理念に沿った支援を心がけている。重要事項説明書、広報誌にも掲載している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に参加したり、お祭りの準備、出店(ホームでもちをつき、切りもちの販売)で利用者も見学を兼ねて参加している。また、介護教室の案内や病気予防掲載の広報誌を回覧板につけてもらい、ホームの理解、啓発に努めている。今年度より、「子ども110番の家」になるなど、地域の一員として積極的に交流の機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価をしてもらい、管理者がまとめあげた。管理者、職員は振り返りの機会として捉え、初心に戻り、再認識させられるとして評価の意義を理解して取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに運営推進会議を開いている。町内会長、民生委員、行政関係者、家族などの参加があり、利用者の状況報告や行事、外部評価の結果報告など行っている。ホーム側から地域へ災害時の協力要請をし、話し合った結果、町内会の防災組織の協力を得ることができるなどホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や成年後見人制度利用の利用者もおり行き来する機会がある。介護相談員の受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日常の状況報告など行い、遠方の家族には電話で定期的に状況報告をしている。外部評価の結果は送付している。金銭管理はホームでは行わず、全て立て替えて行っている。職員異動は面会時に紹介し、広報誌(2~3ヵ月に1回発行)でも紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。面会の際にできるだけ家族と話す時間を多くとるように努めている。また、よりコミュニケーションが図れるように家族と職員との食事会も設けており、家族の意見、要望などを聞き出す工夫をしている。出された意見、要望などは改善に結び付くように話し合い、運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さは理解しており、基本的に異動は行わない。離職で代わる場合は新入職員には以前の職員が間に入り、利用者への心身の負担がないように配慮している。また、3ヵ月は日勤のみで夜勤の際は常勤の職員がともに勤務し指導をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は年間研修計画を作成し、職員育成に取り組んでいる。法人内研修は夜間にあり、夜勤者以外全員参加できるように配慮している。外部研修受講者はホームの定例会時に研修報告をし、職員全員で知識の共有や向上に努めている。また、資格取得の支援も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム研修会に参加し、情報交換、意見交換など行っている。他のグループホームとの相互訪問も行っており、ともにサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>居宅、施設からの入居希望があり、面会して本人や家族から思いや生活歴など聞いている。見学や体験入所などの段階を経て本人が不安なく入居できるように取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として敬い、その人らしくを大切にしながら日々の暮らしの中で職員は料理を教わったり、ちまき作り、ギョーザ作り、漬物など利用者から学んだり、利用者の笑顔に励まされたり支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者と共に寄り添い、身体状況や表情、行動を観察しながら、思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。日々の申し送りノートで職員間の情報の共有をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の身体状況や希望、家族の要望をもとに職員と話し合い、できるだけ本人の好きなことが出来るよう本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は特に大きな変化がない場合は定期的な(6ヵ月、12ヵ月)見直しを行っている。状態変化時や入退院後の見直しはその都度行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診やなじみの理美容院の送迎、自宅訪問など家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関との連携を取っており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。受診時の待ち時間などを考慮して往診を頼むなど配慮している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する家族との話し合いは状況に応じて医師と職員、家族でその都度行っている。ホームとしての対応指針の作成はこれからである。		職員全員で話し合い、重度化や終末期に対するホームとしての方針を定めた指針の作成と家族への同意書の作成が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わりの中で職員は傾聴に心がけ、利用者の尊厳を大切に対応している。夜間の安全確認のため、居室のドア横に小窓を設けているが、すりガラスにしてあり利用者のプライバシーに配慮している。職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが個々の体調や希望に合わせた暮らしの支援を行っている。テレビ観賞、趣味の部分などは個々のペースに合わせている。起床時間もまちまちで朝食は起きてきた順に準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて調理手伝い、片づけなど職員とともに行動など、力を発揮する場面を作っている。キョーザ作りの得意な利用者もあり、教わりながらともに作り、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望で行っており、入浴チェックを行っている。個々の入浴状況は把握している。異性介助を拒否する利用者には同性介助で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	電気関係の職場にいた利用者に電化製品についての助言をもらったり、洗濯物干し、食事の準備、園芸、手芸の得意な利用者など、生活歴や力を活かした役割の支援や月1回は全員で外出するなど気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩、ドライブ、買い物と外出の機会を設けている。散歩を毎日の日課にしている利用者もあり、朝、昼、夕と出かける利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さは理解している。居室で過ごす利用者にはロック、声かけで所在確認をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力の下、昼夜間想定で避難訓練を行っている。消火器、設備点検も定期的に行っている。運営推進会議において町内の防災組織の協力がもらえるようになり、緊急連絡網にも入ってもらっている。また、救命救急の研修、勉強会も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は個々に記録しており、体重測定も月1回行い個々の状態の把握に努めている。身体状況に応じて食事形態(おかゆ、ミキサー、とろみ)も考慮している。栄養バランスは法人の管理栄養士に相談、アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングは明るく、広くて開放的である。和室も作られており、広いウッドデッキやベランダにはリビングから出入りができるので、利用者は思い思いの場所で過ごしている。大型テレビの前にソファが置かれ、利用者がくつろげるように配慮している。リビングは窓を開けると風が通り心地よい。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口はドアと軒が木製になっており家庭的な雰囲気が出ている。居室もフローリングでベッド、クローゼット、タンスとともに木製のものが置かれ温かさがある。テレビや家族の写真、扇風機など使い慣れたものが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。		